

平成20年度事業計画書

(平成20年9月1日から平成21年8月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

I 余剰食品の回収と福祉団体への無償分配事業について

フードバンク関西は、昨年度に引き続き本年度も食品関連企業から余剰食品と余剰生活用品を回収し、生活弱者の自立を支援する社会福祉施設や福祉団体にこれら食品等は無償で分配する事業を継続し、さらに発展させます。

本年度は、昨年度後半に食品を無償提供して下さる企業の数が増えた事に伴って、食品取扱量の顕著な増加が年度当初から見込まれるので、それらを有効に活用して下さる、生活弱者を支援する福祉団体の数を増やし、事業の拡大と充実を目指します。

また、大量の食品が提供可能な時は、すでに食品の受取団体となっている福祉団体のみを対象と限定せず、いろいろなネットワークを活用して食品提供の情報を広範囲の福祉団体に送り、受取を希望する団体への無償分配を行っていきます。

フードバンク関西の食品の回収と分配、その他の作業に当る無償スタッフの方々には、やりがいを感じる働きやすい環境の整備を心がけ、負担過多にならない運営を行い、昨年度に引き続き増員を図ります。

フードバンク関西は、新しく余剰食品の提供を申し出てくださる企業に対し、食品の品質や保管条件等を吟味し、受入可能かどうかをよく検討すると共に、食品の配送についても協力を求め、またフードバンク関西の協働事業者としての参加を求めます。

また、一般の方々のフードバンク活動への関心が高まってきたことを受け、フードバンク関西の事業への参加や支援は、その企業が社会貢献を積極的に行う姿勢として一般消費者に良い企業イメージを与える事を積極的にアピールし、食品の無償提供のみでなく、この事業自体への支援を求めています。具体的には、検索エンジンで上位を維持し続けているフードバンク関西のホームページを積極的に活用します。

食品を受け入れて有効活用して下さる福祉団体の皆さんに対しても、フードバンク関西の事務所での食品の受け渡しや、運送費の一部負担をお願いする等、この事業の長期的継続が図れるよう、参加と協力を求めます。

フードバンク関西の実務部分では、昨年度からの懸案である運営資金の継続的確保の手段を確立するという急務にとりくみます。助成金を申請し続ける事はもとより、多角的に運営資金調達の方法を探ります。

加えて本年度に行いたい設備の改良として、資金の目途がついた段階で、芦屋事務所の駐車場に屋根をつけ、雨天時の荷降ろし作業が快適に行えるようにします。またさらに尼崎倉庫の有効活用、芦屋事務所での一元的取り扱いによる食品管理の効率の向上を目指し、設備の改良と充実を模索したいと考えます。

フードバンク関西は、フードバンク活動の日本での拡大を願う見地から、他地域のNPO団体がフードバンク事業への参入を希望し支援を求めてきた場合、この事業の先駆団体として私達が今までに培った方法や経験を情報提供し、日本国内にこの活動が広く根付き拡大していく事を応援します。

II 小規模作業所生産品バザーへの取り組みについて

フードバンク関西の社会貢献のもう一つの形として、食品提供企業であるカルフルニ崎店と、食品受け入れ団体である小規模作業所との間をつなぎ、カルフルニ崎店の1階商業スペースの一部を無償で借り受け、出店料無料の作業所生産品バザーを開催しています。昨年度から開催頻度を3か月に一度とし、本年度も継続します。また出店作業所を増やし、イベントとしてのバザーの内容の充実を図ります。フードバンク関西のこのバザーは、一般購買客への販路を確保しにくい障害者小規模作業所にとって、一般購買客への貴重な販売の機会になり、生産品の品質の向上と、売れ筋商品開発のための情報収集の場として、また接客を通して通所者と一般の方々との交流の機会としても効果をあげています。

III 「ふれあい工房 悠 (はるか)」について

毎週土曜日午前11時から午後2時までの3時間、「ふれあい工房悠」と名づけて、芦屋事務所を一般の皆さんに開放し、余剰食品を食材としたランチの試食会を行い、見学と交流の場として活用しています。

調理士資格を持つスタッフが中心になって、その週に取り扱った食品を食材としたランチを準備し運営しています。余剰食品の搬入、搬出等、フードバンク関西の活動を直に見聞する機会として、また商品として扱われなくなった食品も食べ物として全く遜色がないという事を、試食を通じて実感する場として、とても効果的です。

地域の方々や見学者、食品を受け取りに来た福祉団体関係者、フードバンク関西のスタッフ、いろいろな立場の人々が、くつろいだ雰囲気の中で試食と会話を楽しみ、交流を深めています。多くの方に「ふれあい工房悠」での体験を通して私達の活動への理解を深め、支援の輪に加わっていただく広報活動の一つとして、また、たくさんの方々との出会いによる新たな発展を期待して、本年度もこの事業を続けます。

IV 交流会について

本年度新たにとりくむ行事としてフードバンク関西に関わって下さる企業、福祉団体、作業所生産品バザー参加団体、フードバンク関西スタッフが一同に会して交流を深める「交流会」を開催します。

日頃は接触する機会がない、食品提供企業、食品を受け取り有効活用して下さる福祉団体、そしてフードバンク関西スタッフが「金銭の介在しない新しい食べ物の流通のしくみ」を担う仲間として集い、情報交換を通じて、フードバンク関西の事業内容をさらに充実、向上させる機会となる事を期待しています。